



自社技術を活かし機能性フィルム事業へ

自社の**ドライコーティング技術・繊維へのナノ金属コーティング技術**を活用し、「**機能性フィルム事業**」へ進出。主に携帯やスマートフォンなどのタッチパネル用透明導電フィルムに使用されている。参入後の業況の詳細は非公開であるが、現在は、携帯、スマートフォン等のタッチパネルの普及により、生産が追いつかない状況にある。

業況等の動向について

本業の動向について

染色整理業、テキスタイル事業。1990年代をピークに減少を続けている。2000年代に入り原油高や市場における安価な外国製品(中国製)の割合が増え、特に昨今の円高による輸出の売上高の減少なども影響している。

異業種参入事業の概要

機能性フィルム事業。携帯、スマートフォン等のタッチパネル用透明導電フィルムの製造を手掛け、中でも高付加価値ハイエンド製品を得意とする。売上高等は非公開であるが、携帯、スマートフォン等のタッチパネルの普及により市場は拡大し、生産が追いつかない状態である。

異業種に参入した動機や経緯、きっかけ

国内の繊維産業界全体に陰りが見え、かつ、本業では維持できないと言う危機感から、自社の技術を活用できる、成長分野へ進出することで生き残りを賭けた。

マーケティングについて

国内の産業展などを見学、成長性の高い、参入可能な分野を探し、電子産業が良いという結論に達した。

参入して際しての投資について

事業の開始から10年間で主に設備投資やM&Aに使用。20%を開始からの5年間に、80%を後半の5年間に投資した。投資総額は70億円。

参入して最も成果のあがったこと

増収、増益になっている。機能性フィルムにおいて、世界シェア第2位になれたこと。

参入して最も困難だったこと

成長産業といわれる分野も最近では、3年間ほどでピークを迎えるようになってきている。成長産業分野や技術の変化のスピードの早さや難しさなどがある。売上高の70%~80%を海外マーケットが占めることで、円高がこの5年間で30%も進むなど大変といえ、投資の面でも大変なことが多くある。社内の理解や説得が大変であった。

参入に際して活用した自社の技術ノウハウについて

ドライコーティング技術。繊維へのナノ金属コーティング技術を活用。コーティングしたい物質を基材につける加工法で、タッチパネルの電極や、液晶の透明電極、液晶の電波シールド、PDP(プレイ・パネル)の前面に使われている。

今後の展望・見通し

機能性フィルム市場の拡大に合わせ増産体制をとる。機能性フィルムの環境・エネルギー分野のシェアを拡大する。材料メーカーとして、食料・農業、メディカルなどの新分野へ販路の拡大すること。

メリット・デメリット

メリットは増収増益に繋がり、その結果企業として経営が安定し事業が続けられたこと。

デメリットは敢えて言えば、繊維業界において異業種参入を行わないこと自体であると感じる。

異業種参入時のアドバイス

異業種参入に躊躇せず、勝ち残る為には異業種に進むべき。常に新しいことを考え、行動しなければならぬ。

行政の支援について

異業種参入に際し、役に立った行政、支援機関の制度

中小企業金融公庫の融資制度や地域資源活用支援事業を利用。

異業種参入に際し、行政に対して望む支援

異業種参入の際、設備投資に伴う資金の融資制度や経費減税、償却期間延長などの支援制度。増産体制時の雇用や人件費などへの支援、優遇制度。異業種参入を積極的に行える制度や支援の拡充。

会社概要

設立:昭和11年4月18日

資本金:3,000万円

従業員数:125名

URL: <http://www.sekisuinct.co.jp>